

# 全国の精神科の医療施設名・診療科目名に関する調査

A Survey on Nationwide Psychiatric Medical Facilities' Names and Clinical Departments

小阪 成洋

Narihiro Kosaka

【目的】本調査は、精神科診療所・精神科病院（以下、精神科医療施設）の名称について頻出の言葉を明らかにすること、および精神科医療施設が掲げる診療科目のうち頻出のものを明らかにすることを目的とした。【方法】全国の精神科医療施設の施設名・診療科目を収集してデータベース化し、施設名として出現する言葉および診療科目の多寡について検証した。また、比較対象を耳鼻咽喉科診療所とした。【結果・考察】耳鼻咽喉科診療所が「耳鼻咽喉科（耳鼻科）」を診療所名に掲げている割合が77.7%と高かったのに対して、精神科診療所が「精神科」を診療所名に掲げている割合は0.2%と極端に低かった。代わりに目立ったのが、「メンタル」（17.0%）、「こころ」（10.3%）であり、これらの言葉は、精神科診療所が「精神科」を名称に掲げる代替手段として機能していると考えられた。精神科病院については「精神科」を病院名に掲げている割合は0.6%と低く、さらに「メンタル」（0.7%）や「こころ」（3.2%）の占める割合も低かった。そのため、精神科病院は、名称のみをみただけでは一般的な病院と区別がつきにくい傾向があるといえよう。精神科医療施設において標榜されている診療科目は、精神科、心療内科、内科が第1～3位を占めていた。【総括】精神科医療施設においては「精神科」という言葉は施設名として掲げられていない様子がかがわれた。また、診療科目としては「心療内科」をあわせて標榜することによって、患者を含め世間一般の印象に配慮している様子がかがわれた。「精神科」の抱えるスティグマは、調査結果に大きく影響した可能性がある。啓発活動などにより、「精神科」のスティグマが軽減される未来を展望したい。

## 索引用語

精神科, 医療広告, 診療科目, スティグマ

## はじめに

本調査の第1の目的は、精神科診療所および精神科病院（以下、精神科医療施設）の名称について、その全国的な特徴を明らかにすることである。街中では、「歯科」「眼科」

「耳鼻咽喉科」「整形外科」「内科」「外科」「皮膚科」など、その診療科目名を施設名に掲げている診療所を多くみかける。これに対して、精神科医療施設が名称に「精神科」を掲げているのを目にするのは少ない。その一方で、「メンタルクリニック」や「こころの診療所」といった施設名を掲げている精神科診療所を散見する。このような傾向は

著者所属：日本福祉大学スポーツ科学部

受理日：2023年4月12日

doi：10.57369/pnj.23-107

全国的なものなのだろうか。精神科の医療施設名に言及している先行研究として佐藤<sup>12)</sup>が挙げられる。佐藤は、精神科病院の名称変更について、精神科医の立場からブランディングの視点で論じている。しかしながら、精神科医療施設の名称について網羅的に扱った研究は管見の限り見あたらない。そこで、本調査では、全国の精神科医療施設の名称に掲げられている言葉について全国的な傾向を検証することとした。

さらに本調査の第2の目的を、精神科医療施設が「精神科」とあわせて標榜している診療科目について全国的な傾向を明らかにすることとした。先行研究は、管見の限り見あたらなかった。

## Ⅰ. 方 法 ——対象および調査方法——

本調査では、次の検証を行う。全国の精神科医療施設がその名称に「精神科」を掲げているかどうか、「精神科」ではない言葉掲げている場合、どのような言葉が多いのか。また、どのような診療科目が全国的に多く掲げられているのかを検証する。なお、総合病院における精神科については対象外とした。理由としては、その名称に「精神科」を掲げる必要性が乏しく、また、診療科目についても精神科単科病院とは様相が大きく異なるからである。また、施設の名称については、耳鼻咽喉科診療所を比較対象とする。耳鼻咽喉科は精神科と同様に受診者に「比較的特別な診療科」と受け取られやすく、また、耳鼻咽喉科と精神科では診療所の数的規模が比較的近いためである（耳鼻咽喉科5,783件、精神科7,223件<sup>7)</sup>）。また、「耳鼻咽喉科」と「精神科」については、前者がスティグマを抱えていないのに対して後者がスティグマを抱えており、施設名の特徴を比較するのに有効であると考えられる。限界として、耳鼻咽喉科は単科の病院が少ない点に留意が必要である。

調査方法としては、厚生労働省が各都道府県に作成を指示している「医療情報ネット」<sup>5)</sup>に登録のあるすべての精神科医療施設を1件ずつ拾い上げ、その名称および診療科目をデータベース化し、当該項目について単純な数え上げを行った。「医療情報ネット」はアクセシビリティが良好ではないため、データベース作成に多大なコストがかかる。そのため、民間の医療機関検索サイトである「お医者さんガイド」<sup>2)</sup>に掲載のある当該科の医療施設を先にデータベース化した。その後、「医療情報ネット」と突き合わせ

をし、網羅されていない施設について「医療情報ネット」から補った。「医療情報ネット」では京都府が一覧化してデータを閲覧できない仕様になっていたため、京都府のデータは「お医者さんガイド」のみのものであり、「医療情報ネット」から補うことができていない。なお、本調査では両サイトに掲載されている医療施設をデータベース化したものの、実態としてはすでに診療を終了している場合もわずかながら含まれている可能性があり、その傾向はとりわけ診療所で強いものと予想される。この点は本調査のデータ収集デザイン上の弱さといえる。なお、データベース作成にはExcel（2013年版）を用いた。各医療施設の名称を構成する言葉および診療科目のカウントについては、Excelに加えてKH Coder<sup>1)</sup>を用いた。

上記内容に加えて、以下2点について補足的に調査・検討を行った。精神科の近接領域である心療内科との関係性を検討するため、「令和2（2020）年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況」<sup>8)</sup>より、医師が主・副とする診療科について比較を行った。また、診療所名・診療科目として「精神科」を掲げることについての社会的認知について質的に明らかにするため、精神科を含めた診療所運営の指南書<sup>4,9)</sup>および実在するクリニックのホームページにおける記述<sup>11)</sup>を調査し、結果を引用した。

## Ⅱ. 結 果 ——医療施設名・診療科目——

### 1. 本調査のデータに関する説明および用語の定義

表1は、「収集できた医療施設のデータ数（B）」が、「全国におけるすべての医療施設の数（A）」に占める割合を示している。「全国におけるすべての医療施設の数（A）」は、厚生労働省の実施による医療施設調査<sup>7)</sup>が公式な数値であり、本調査で「収集できた医療施設のデータ数（B）」はこれを下回るものの、精神科診療所（88.4%）、精神科病院（99.2%）、耳鼻咽喉科診療所（99.7%）と高い割合に及んでおり、信頼性は担保されていると思われる。

本調査における用語の定義として、「内科」「小児科」「精神科」「神経科」「心療内科」「脳神経内科（神経内科）」「耳鼻咽喉科」などを「診療科目」と称する。「診療科目」は、精神科および耳鼻咽喉科それぞれにおいて、近接領域と非近接領域に分けられる。本稿における近接領域・非近接領域は便宜的なものである。同様に、「心療」「メンタル」「こころ」「みみ・はな・のど」などを、診療

表1 収集できた医療施設のデータ数が、全国におけるすべての医療施設の数に占める割合 (%)

医療施設種	全国におけるすべての医療施設の数 (A)	収集できた医療施設のデータ数 (B)	BがAに占める割合 (%)
精神科診療所	7,223	6,385	88.4
精神科病院	1,059	1,051	99.2
耳鼻咽喉科診療所	5,783	5,763	99.7

※「全国におけるすべての医療施設の数 (A)」は、医療施設調査<sup>7)</sup>の数値 (2020年)

※「収集できた医療施設のデータ数 (B)」は、医療情報ネット<sup>5)</sup>およびお医者さんガイド<sup>2)</sup>の数値 (2022年)

科目に準ずる言葉として「準診療科目」と称する。「準診療科目」は、診療科目に準ずる群とその他の群に分けられる。

## 2. 医療施設が施設名に掲げている言葉

データベースから得られた結果を、表2に示した。「割合 (%)」の施設種ごとの合計がそれぞれ100.0%を超えているのは、重複があったためである。精神科診療所を例とすると、「〇〇心療内科神経科医院」や「〇〇内科循環器内科メンタルクリニック」などのような施設名である。また、「診療科目、準診療科目どちらも掲げていない」場合の例としては、「〇〇医院」や「〇〇クリニック」などが挙げられる。なお、「〇〇」は地名や固有名詞を示す。

精神科診療所における「こころ」の件数は、「COCORO」(1件)、「KOKORO」(1件)、「こころ」(481件)、「ココロ」(4件)、「心」(170件)の計657件であり、これらすべてを合算して、ひらがな表記で「こころ」(657件)として示している。

精神科病院における「こころ」の件数も同様に、「こころ」(28件)と「心」(6件)を合算してひらがな表記で「こころ」(34件)として示している。

耳鼻咽喉科診療所における「みみ・はな・のど」の件数の内訳は、「みみ・はな・のど」(51件)、「みみはなのど」(24件)、「耳・鼻・のど」(5件)、「みみはな」(29件)、「はな・みみ」(1件)、「みみ はな のど」(2件)であり、これらをすべて合算して「みみ・はな・のど」(112件)として示している。

## 3. 精神科医療施設が標榜している診療科目

表3から、精神科医療施設が掲げている診療科目として、精神科診療所については精神科(100.0%)、心療内科(66.1%)、内科(45.1%)、精神科病院については精神科

(100.0%)、内科(53.0%)、心療内科(45.5%)となっており、両者間で心療内科と内科の多さが逆転している。このようになっている理由については、管見にして見当がつかない。また、そもそも内科が多くみられる現象についても、データからは推測が難しい。精神科病院においても、入院中の患者の内科疾患にスムーズに対応するというねらいがあるのかもしれないが、これも推測の域を出ない。

## 4. 精神科・心療内科それぞれの医師数

上林ら<sup>3)</sup>と同様の指摘になるが、表4の上段は、全国の医師のうち「主たる診療科目」として精神科あるいは心療内科と回答した医師数である。これに対して下段は、「主たるものではない診療科目も含めて、実際に診ている診療科目を複数回答した医師数」である。主たる診療科目に心療内科を挙げる医師が885人であるのに対して、複数回答のうち心療内科を診療科目として標榜している医師(心療内科を主としていない医師数)は4,989人(5,874-885)である。これは、心療内科を主とする医師(885人)のおよそ5倍強に及ぶ。

## 5. 精神科を含めた診療所運営の指南書および実在のクリニックホームページにみられる記述

下記2点は、精神科を含めた診療所運営の指南書における記述である。

木村<sup>4)</sup>による『患者を呼び込む医院看板のつくり方』(前略)患者さまだけでなく、その家族にアピールする看板が必要です。精神科は、社会的な視線を気にして入りにくい診療科であるため、特にご家族が抵抗感なく入られる名称や医院づくりが必要です。(中略)まず医院の名称を工夫する必要があります。おしやれて抵抗感のない名称を考えましょう。(中略)標榜科目も精神科は避けた方がよいでしょう。(下線は引用者による)

表2 医療施設が施設名に掲げている言葉

施設種 (総数)	言葉の種類	施設名を構成する言葉	件数	割合 (%)	割合計 (%)		
精神科 診療所 (6,385件)	診療科目	精神科の非近接領域	内科	136	2.1	3.4	106.2
			小児科	27	0.4		
			整形外科	12	0.2		
			脳神経外科	9	0.1		
			外科	7	0.1		
			胃腸科	4	0.1		
			歯科	4	0.1		
			耳鼻咽喉科	4	0.1		
			産婦人科, 婦人科	3	0.0		
			皮膚科	3	0.0		
			眼科	2	0.0		
			その他 (1)	7	0.1		
	精神科の近接領域	心療内科	196	3.1	5.0		
		神経科	72	1.1			
		脳神経内科 (神経内科)	41	0.6			
		精神科	10	0.2			
	診療科目に準ずる	心療	129	2.0	3.9		
		神経	80	1.3			
		精神	35	0.5			
		脳神経	7	0.1			
	準診療科目	その他	メンタル	1,086	17.0	30.4	39.4
			こころ	657	10.3		
			ストレス	47	0.7		
発達			46	0.7			
ハート			43	0.7			
睡眠, 眠り, スリープ			26	0.4			
メモリー, もの忘れ			14	0.2			
カウンセリング			7	0.1			
ブレイン			7	0.1			
認知症			5	0.1			
心理			3	0.0			
痛み			2	0.0			
診療科目, 準診療科目どちらも掲げていない			4,051	63.4	63.4		
精神科 病院 (1,051件)	診療科目	精神科の非近接領域	内科	2	0.2	0.2	100.2
		精神科の近接領域	神経科	10	1.0		
			精神科	6	0.6		
	準診療科目	診療科目に準ずる	心療内科	0	0.0	2.1	
			精神	12	1.1		
		神経	5	0.5			
		心療	5	0.5			
	その他	こころ	34	3.2	3.9		
メンタル		7	0.7				
診療科目, 準診療科目どちらも掲げていない			972	92.5	92.5		
耳鼻咽喉科 診療所 (5,763件)	診療科目	耳鼻咽喉科の非近接領域	内科	54	0.9	3.0	108.1
			小児科	27	0.5		
			眼科	21	0.4		
			皮膚科 (皮ふ科)	21	0.4		
			整形外科	12	0.2		
			外科	10	0.2		
			歯科	10	0.2		
			その他 (2)	17	0.3		
	耳鼻咽喉科の近接領域	耳鼻咽喉科 (耳鼻科)	4,476	77.7	80.3		
		アレルギー科	112	1.9			
		気道食道科	37	0.6			
		口腔外科	1	0.0			
		呼吸器内科	1	0.0			
	診療科目に準ずる	耳鼻咽喉 (耳鼻)	14	0.2	0.5		
		アレルギー	7	0.1			
		呼吸	6	0.1			
		気管食道	1	0.0			
その他		みみ・はな・のど	112	1.9		2.9	
		めまい	20	0.3			
	睡眠	14	0.2				
診療科目, 準診療科目どちらも掲げていない			1237	21.5	21.5		

※その他 (1) の内訳は次の通り。

アレルギー科 (1件), 形成外科 (1件), 循環器内科 (1件), 消化器内科 (1件), 脳外科 (1件), 麻酔科 (1件), 肛門外科 (1件)。

※その他 (2) の内訳は下記の通り。

形成外科 (6件), 脳神経外科 (3件), 胃腸科 (2件), 麻酔科 (2件), 心療内科 (1件), 糖尿病内科 (1件), 泌尿器科 (1件), 美容外科 (1件)。

※その他 (3) の内訳は下記の通り。

いびき (4件), きこえ (3件), 甲状腺 (3件), 聴覚 (2件), 難聴 (2件), 嚥下 (1件), 補聴 (1件), 鼻・副鼻腔 (1件), VOICE (1件), EAR (1件), Sleep (1件)。

表3 各医療施設が標榜している診療科目とその割合

医療施設種 (総数)	施設が標榜する 診療科目名	施設が標榜 している 件数	割合 (%)
精神科 診療所 (6,385 件)	精神科	6,385	100.0
	心療内科	4,221	66.1
	内科	2,881	45.1
	神経科	717	11.2
	小児科	523	8.2
	皮膚科	449	7.0
	整形外科	354	5.5
	脳神経内科	352	5.5
	外科	322	5.0
	循環器内科	218	3.4
精神科 病院 (1,051 件)	精神科	1,051	100.0
	内科	557	53.0
	心療内科	478	45.5
	神経科	308	29.3
	歯科	135	12.8
	脳神経内科	87	8.3
	リハビリ科	38	3.6
	皮膚科	21	2.0
	放射線科	19	1.8
	消化器内科	16	1.5

真田ら<sup>9)</sup>による『メンタルクリニック運営の実際』(前略)精神科クリニックを受診するのは、私たちが想像している以上に不安であり、世間体が気になるものらしい。私たちは患者さんの逡巡を軽くするために、あえて心療内科を標榜したりもするが、それでも精神科系のクリニックに入るのは抵抗があると患者さんは言う。その点、メディカルビルは、他科のクリニックがいくつも入っているから、建物に入るときに他人に見られても精神科に行くことがバレないことが患者さんにとっての敷居の低さになる。(下線は引用者による)

佐竹(精神保健指定医, 精神科専門医, 精神科指導医)<sup>10)</sup>は自身の運営するクリニックのホームページ<sup>11)</sup>で、精神科を標榜せずに心療内科を標榜している理由について次のように記載している。

(前略) 成り立ちから考えると「心療内科」と「精神科」

表4 精神科・心療内科それぞれの医師数(人)

	精神科医	心療内科医
医師数(主たる診療科別)	16,490	885
医師数(主・副を含めた診療科別)	18,037	5,874

(文献3を参照し、文献8より数値を最新のものに置き換えて作成)

では大きく異なるものの、精神医学の治療対象の広がりによって、現在では心療内科と守備範囲がかなり重なり合うようになってきていますが、クリニックの標榜科という点では見方が変わります。それは何かというと、やはり「精神科」の古いイメージがまだまだ残っているということです。年配の方ではこの傾向が強く、精神科を看板に掲げることによって、受診の敷居がとて高くなり、敬遠されてしまう方が多くおられます。

そのため、当院は軽症の方でも早い段階で受診しやすいように「精神科」をあえて掲げておりません。(下線は引用者による)

### III. 考 察 ——精神科の医療施設に用いられる言葉と 診療科目——

#### 1. 本調査結果から得られた知見

本調査結果を総括しよう。

医療施設名について、精神科診療所においては「精神科」を掲げずに準診療科目を掲げる傾向がみられた。また、精神科病院においては「精神科」を掲げない傾向がみられた。耳鼻咽喉科診療所においては「耳鼻咽喉科」を掲げる傾向がみられた。

診療科目について、精神科医療施設において「精神科」を掲げながら「心療内科」を掲げている割合は少なくなかった。精神科医療施設が、施設名において「精神科」を掲げようとならない傾向がある点、および、診療科目において「心療内科」を掲げる傾向がある点は目立った特徴であると思われる。同時に特徴的なのが、施設名に「診療科目、準診療科目どちらも掲げていない」割合は精神科医療施設で高く、耳鼻咽喉科診療所で低かった点である。

精神科・心療内科それぞれの医師数について、表4より、心療内科を主とせずに標榜している医師のうち、大部分が精神科医であることが推察される。つまり、心療内科

を標榜している医師のうち、その多くが精神科医であることが示唆されているのである。このうち、主たる診療科目を精神科としている医師が、従たる診療科目として心療内科を標榜している場合も考えられる。

2冊の精神科を含めた診療所運営の指南書<sup>4,9)</sup>において、「精神科」は社会的な視線を気にして入りにくい診療科である旨が描かれ、また下線部の通り、診療科目として精神科を避けたり、心療内科を掲げたりしたほうがよいと指摘されている。また、精神科医である佐竹<sup>10)</sup>は敷居が高くなることを避けるために、精神科ではなく心療内科を標榜しているという。

## 2. 個々の項目についての検討

### 1) 精神科の医療施設名に用いられる言葉について

表2より下記のことが考えられる。

精神科診療所の名称において「診療科目、準診療科目どちらも掲げていない」が63.4%と過半数に達している。「精神科の近接領域の診療科目」(5.0%)のみが直接的に「精神科」に関する医療役割を明示しているものの、その内訳としては「精神科」が10件(0.2%)と少数を占めるのに対して、「心療内科」は196件(3.1%)と「精神科」のおよそ20倍であり、比較的多数を占める。また、「準診療科目」(34.4%)が間接的に「精神科」に関する医療役割を明示していることから、「精神科」を掲げずにその医療役割を明示しようという精神科運営側の意向がうかがわれる。とりわけ目立ったのは、「メンタル」(17.0%)、「こころ」(10.3%)といった言葉である。

精神科病院の名称において、「診療科目、準診療科目どちらも掲げていない」は92.5%と高い。「精神科の近接領域の診療科目」(1.5%)のみが直接的に「精神科」に関する医療役割を明示しており、その割合は低い。「準診療科目」(6.0%)のみが間接的に「精神科」に関する医療役割を明示しており、その割合は低い。こうした事情のため、精神科病院は、施設名のみをみただけでは一般的な病院と区別が付きにくい傾向があると考えられる。

精神科診療所と精神科病院の違いは、精神科診療所が「準診療科目」によってその医療役割を明示する傾向が強い点である。この違いについては、推測の域を出ないものの、精神科診療所と精神科病院の設立時期の差異が原因ではないかと考えられる。つまり、精神科診療所は近年増加傾向にあり、新設されている割合が精神科病院よりも大きい。精神科病院よりも新設の多い精神科診療所で、準診療

科目を掲げる場合がより多くなっているのである。このことから、「メンタル」や「こころ」などの準診療科目を掲げるのが近年のトレンドとなっているものと推察される。

### 2) 耳鼻咽喉科の医療施設名との比較について

表2より、耳鼻咽喉科診療所の名称において「診療科目、準診療科目どちらも掲げていない」は21.5%と半数を下回っており、その割合は低い。「耳鼻咽喉科の近接領域の診療科目」(80.3%)が直接的に「耳鼻咽喉科」に関する医療役割を明示しており、その割合は高い。そのなかでも、「耳鼻咽喉科」は77.7%と高い割合を占めている。「準診療科目」(3.4%)のみが間接的に「耳鼻咽喉科」に関する医療役割を施設名に明示しており、その割合は低い。

つまり、耳鼻咽喉科に比べ、精神科医療施設はその医療役割を明示しない割合が高い(表2)。精神科も耳鼻咽喉科も、どちらも「比較的特殊な診療科」であるなかにおいて、このような差がある理由としては、精神科はスティグマを抱えているために、「精神科」であることを明示しない割合が高く、逆に耳鼻咽喉科はスティグマを抱えていないために「耳鼻咽喉科(耳鼻科)」であることを率直に明示している割合が高いものと考えられる。

### 3) 精神科医療施設の診療科目について

表3より下記のことが考えられる。

精神科に伴う内科については、次のような可能性が想定される。精神科医とは別の内科医が診療している場合、精神科医が内科医としても診療している場合、内科医が精神科医として診療している場合などである。これについて、データからはどのようになっているのか読み取ることは難しい。

診療科目として精神科に加えて「心療内科」を標榜している施設は、精神科診療所で6,385件中4,221件(66.1%)、精神科病院で1,051件中478件(45.5%)となっており、少ないとは言いがたい。精神科医療施設は「心療内科」の標榜を少なからず伴っているのである。表4から、心療内科を副たる診療科とする医師のうちの多くが精神科医であることが指摘できる。このことは表3の結果とも整合性がある。

上記は、精神科を含めた診療所運営の指南書<sup>4,9)</sup>における記述および佐竹<sup>11)</sup>による「精神科を掲げない理由」とも整合性があると考えられる。すなわち、下線部のように、精神科運営側は「心療内科」を診療科目として掲げることで、患者から選ばれる精神科医療施設をつくらうとしている場合があると考えられる。

#### 4) 精神科診療所における「心療内科」について

精神科診療所にとって「心療内科」は「精神科」よりも掲げやすい名称・診療科目であると考えられる。しかしながら、心療内科は精神科とは専門が異なるものであるにもかかわらず、スティグマ軽減のために施設名や診療科目として「心療内科」を掲げている場合があるとすれば、改善の必要があるといえるだろう。

### IV. 精神科のスティグマ軽減に向けた提案 ——ユーザーの視点から考える——

調査結果から、「精神科」は明示しにくい名称・診療科目である点が示唆された。これは「精神科」が抱える課題であると考えられる。表2において、「精神科」よりも「心療内科」を掲げる精神科診療所が多かった点は特筆に値する。表2と文献などをあわせて考察するに、「心療内科」のほうが「精神科」よりもスティグマが低い傾向にあるものと思われる。そこで、この課題に対しての改善策の1つとして、スティグマを抱えていない新しい診療科目名へと刷新することによって、明示しやすい診療科目名とすることが考えられる。例えば、一案として「脳内科」という診療科目名が考えられる。これは厚生労働省<sup>6)</sup>による「不合理な組み合わせとなる事項」には該当しておらず、広告可能な診療科目名に該当する。しかしながら、「脳内科」は「脳神経内科」と名称が似ており混乱を引き起こす可能性が想定されるため、別物として認知されるような普及の仕方を工夫する必要がある。先例を挙げれば、「歯科」と「歯科口腔外科」も似ているが、別の診療科目名として存在している。よって、診療科目名が似ていることをもって、新しく診療科目名を掲げることができない、というロジックは成立しない。「脳内科」以外でもよいので、「精神科」に代わる新しい診療科目名の考案は、「精神科」が診療科目名を明示しやすくする1つの対策手段として議論される余地が残されているものと考えられる（例えば、近年、「メンタルヘルス科」という診療科目を掲げる精神科医療施設を見かけるようになってきている）。

しかし一方で、診療科目名の刷新だけでは、精神科にまつわるスティグマを完全に払拭することは難しい点に留意する必要がある。スティグマは複雑な社会現象であり、人々の文化的態度、メディアの描写、個人の経験など、さまざまな要因に影響されると考えられる。したがって、精神科の抱えるスティグマを本質的に軽減するためには、継

続的な教育や啓発活動が必要になるとと思われる。

### V. 本調査の意義と限界および今後の課題

本調査では、これまで着目されてこなかった精神科の医療施設名・診療科目名について集計結果を全国規模で俯瞰した。「精神科」を名称に掲げる精神科医療施設が極端に少ないこと、および、診療科目としても「精神科」は掲げにくいものであることを、一定のエビデンスをもって示した点に学術的な意義があると考えられる。さらに人々が実感はしていてもデータで可視化されていなかった事実を示したところに社会的意義があると考えられる。

本調査は地域ごとの差異にまでは迫っていない点に課題が残る。また、質的な部分については精神科を含めた診療所運営の指南書<sup>4,9)</sup>などからの引用で補ったものの、十分な厚みがあるとは言い難い。そのため、精神科医療施設がその名称を決める際に、どのようなことを考えて臨んでいるのか、詳細な質的研究を行う余地が残されている。加えて、本調査は日本国内に限った調査であるため、諸外国との比較をする余地が残されている。

本調査から、精神科診療所は準診療科目によって医療役割を明示する傾向をもつことが明らかとなったが、その是非については改めて調査・検討が必要であろう。懸念される論点として、例えば、準診療科目として多く掲げられている「メンタル」や「こころ」が、誤謬を抱えている可能性がある。つまり、「メンタル」や「こころ」という言葉はユーザー側に対して心理士が行うような治療アプローチを期待させる可能性があり、精神科医が行うそれとの間にギャップを生み出している場合が考えられるのである。

### おわりに

本調査では、精神科診療所、精神科病院がそれぞれどのように施設名・診療科目を掲げているのかを明らかにした。施設名については、どちらも「精神科」であることを明示しない点が特徴的であった。精神科診療所については、「精神科」であることを明示しないように配慮しつつ、準診療科目によって診療役割を明示するようにしている施設が少なくない点が特徴的であった。また、精神科医療施設は耳鼻咽喉科と比べてその医療役割を明示しない割合が高いことが判明した。診療科目については、精神科医療施設は「心療内科」や「内科」を併設している割合が高い点

が特徴的であった。「精神科」の抱えるスティグマは、調査結果に大きく影響した可能性がある。啓発活動などにより、診療科目名だけでなく「精神科」自体へのスティグマが軽減される未来を展望したい。

なお、本論文に関連して開示すべき利益相反はない。

謝辞 論文の構成について懇切丁寧にご助言くださった、名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授内田良先生に深謝する。

## 文献

- 樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—，第2版。ナカニシヤ出版，京都，2020
- 医事公論社SETUP：お医者さんガイド (<https://www.10mandoc.co.jp/>) (参照 2022-03-30)
- 上林茂暢，山内常男：戦後に誕生した診療科。医療経営士初級テキスト5 診療科目の歴史と医療技術の進歩—医療の細分化による専門医の誕生，総合医・一般医の役割—，第3版。日本医療企画，東京，p.83，2018
- 木村泰久：患者を呼び込む医院看板のつくり方（医院経営実務サポートシリーズ3）。日本医療企画，東京，p.63，2007
- 厚生労働省：医療機能情報提供制度（医療情報ネット）について。2007 ([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/teikyouseido/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/teikyouseido/index.html)) (参照 2022-03-30)
- 厚生労働省：広告可能な診療科名の改正について。2008 ([https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00tb3724&data Type=1&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tb3724&data Type=1&pageNo=1)) (参照 2022-03-30)
- 厚生労働省：令和2（2020）年医療施設（静態・動態）調査（確定数）・病院報告の概況。2022 (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/iryosd/20/>) (参照 2022-05-26)
- 厚生労働省：令和2（2020）年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況。2022 (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/20/index.html>) (参照 2022-03-30)
- 真田順子，真田優一：開業を決める前に考えておきたいこと（2）。メンタルクリニック運営の実際—設立と経営，おもてなしの工夫—（原田誠一，松崎博光編，外来精神科診療シリーズ）。中山書店，東京，p.13，2015
- 佐竹良樹：当院について ([https://kokoro-karada-cl.com/about/#sec\\_feature](https://kokoro-karada-cl.com/about/#sec_feature)) (参照 2023-02-28)
- 佐竹良樹：精神科を掲げていない理由 (<https://kokoro-karada-cl.com/column/%E7%B2%BE%E7%A5%9E%E7%A7%91%E3%82%92%E6%8E%B2%E3%81%92%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%AA%E3%81%84%E7%90%86%E7%94%B1/>) (参照 2023-02-28)
- 佐藤 仁：精神科病院の広報戦略・ブランディング—報道メディアを活用した情報発信と，病院の名称変更やプラチナくるみん取得など当院の取り組みによるブランディング—。日本精神科病院協会雑誌，40（10）；982-987，2021

# A Survey on Nationwide Psychiatric Medical Facilities' Names and Clinical Departments

Narihiro KOSAKA

Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

[Purpose] This survey aimed to clarify two aspects related to psychiatric clinics and hospitals : 1) the frequently used words in the names of their institution, and 2) the names of the clinical departments.

[Methods] The names and departments of participating facilities were collected, and a database was created. The terms appearing in the names and the departments at each institution were examined. In addition, comparison was made to otorhinolaryngology clinics.

[Results and Discussion] A high percentage (77.7%) of otorhinolaryngology clinics listed “otorhinolaryngology (ENT)” in the name of their clinic ; however, the percentage of psychiatry clinics that listed “psychiatry” in the name of their clinic was extremely low at 0.2%. “Mental” (17.0%) and “mind” (10.3%), likely functioning as alternatives to “psychiatry,” were more prevalent. In terms of psychiatric hospitals, only 0.6% had “psychiatry” in their name, and even “mental” (0.7%) and “mind” (3.2%) were not prevalent ; thus, psychiatric hospitals may be indistinguishable from general hospitals just by looking at the name. The top three department names were psychiatry, psychosomatic medicine, and internal medicine.

[Summary] We found that few institutions had the term “psychiatry” in their name. As many institutions had “psychosomatic medicine” as a clinical department, this suggests that the perception of the general public, including patients was considered in the naming of the institution, and that there is a stigma associated with “psychiatry”. Further studies are needed to investigate ways to reduce the stigma of “psychiatry” such as through educational activities.

**Author's abstract**

**Keywords** psychiatry, medical advertising, subject of medical treatment, stigma